

10月4日、台湾青森りんご友の会の7社10人は、県内外のリンゴ輸出本県に招へいして産地見学会と情報交換会を開催した。今回は、台湾に加

えて香港にも青森りんご友の会を創設することに

5万トン時代へ

青森リンゴ輸出

35

招いた。目的の一つは、これから始まる台湾、香港向けの輸出を前に、2016年産のリンゴの生産状況を産地市場やりんご研究所、選果場、リンゴ園地で、自らの目で確認して

もう一つは、県内外のリンゴ輸出関係者と台湾、香港の友の会会員との情報交換会だ。

情報交換会では、産地側から今年のリンゴの生産状況、輸出の計画、台

湾、香港での消費宣伝の計画について情報を提供。一方、台湾、香港側からは、現地での青森りんご販売を取り巻く情勢や効果的な消費宣伝の方法などについて意見などを出してもらい、総合討

輸出拡大へ明瞭化必要

議を行った。

意見交換の中で特に問題となったのが、青森リンゴの出荷規格の不透明

さだ。青森リンゴの輸出者となる農協や出荷業者

によって規格が違っている。品質規格は「秀・優良」が基本だが、例えば農協でも、秀の中に特選、マル特、秀特、秀A、天、寿、特などさまざまあり、本県全体では200種類以上もあると言われている。

輸出先で競合する米国ワシントン州産は、「Washington Fancy Extra Fancy」(最上級の上質)、「Washington Fancy」(上質)など5段階に統一され、全ての輸出業者がこの規格を導入して輸出相手国には好評だ。

県内でも、岩木山麓や奥羽山脈など山手の火山灰土壌で育ったリンゴと、岩木川沿いなどの肥沃な沖積土壌で育った平場のリンゴ、さらには、中南地方と西北地方では、それぞれ味や貯蔵性、大きさなど、個性や持ち味の違いがあり、出荷者

はそれらの違いを規格に込めて差別化を図っている。しかし、輸入先では、青森リンゴの規格は理解不可能だ。

輸出先で競合する米国ワシントン州産は、「Washington Fancy Extra Fancy」(最上級の上質)、「Washington Fancy」(上質)など5段階に統一され、全ての輸出業者がこの規格を導入して輸出相手国には好評だ。

局長 深澤守

出荷規格



弘前市内のリンゴ園を視察する台湾、香港の青森りんご友の会のメンバー＝10月4日